



『年 頭 所 感』

院長 矢野 良英

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、4月に病院機能評価機構による病院評価を受審し、一発クリアーで、念願でありました認定病院を取得できましたことが第一の喜びでした。病院スタッフ一同の一年以上に渡る努力の積み重ねが実った年でした。その後も各種委員会を毎月開催して、自主努力による病院機能の向上を図る体制が確立しつつあります。この意識が全職員に浸透する事が大切です。

医療界を振り返りますと、自民党の圧勝の中、高齢化社会を迎えるにあたり国民総医療費の伸びを抑えるために、医療制度改革を旗印にした医療費削減の方策が検討され、本年度は診療報酬を3.16パーセント引き下げるマイナス改定や、患者負担率を高くすることが昨年度末に閣議決定されました。

今後も患者さんの治療費負担割合のますますの増加や医療保険に免責制度の導入等が予測され、長期にわたり医療界は冷たい風にさらされることとなります。

この逆風の中、ヨットのように少しでも目標に向けて前進するように舵をきりたいと考えています。今年の目標は、先ずは、病院の医療法人化を図り、次に地域連携や介護機能を備えた診療所を開設し、通所リハビリ、スポーツ外来、パワーリハビリ等の外来機能の充実を図ると共に、待ち時間の短縮化を含めた患者さんへの各種サービスの向上を目指したいと考えています。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



「病院機能評価認定にむけての看護部の取り組み」

看護部長 山元 加代子

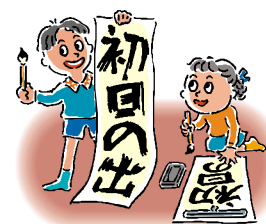
医療の高度化、複雑化する中で、看護部も質の高い看護サービスが提供できるように、看護職員の臨床能力を向上していかなければなりません。当院でも、医療の安全を確保し、患者様が安心して療養生活が送れるように取り組んでいます。

今回の機能評価審査で第三者による評価を受け、日々の看護業務の内容が適切であるのか評価してもらい、問題点を明らかにし、きちんと改善することにより、より安全で質の高い看護サービスの提供ができると考え審査に取り組みました。

- ☆ 看護部門の組織を確立し、理念を策定、周知を図る為院内掲示し、名札に入れていつも意識付けできるようにしました。その理念を基に各部門別事業計画・活動計画スケジュールを作成し、前・後期で達成度調査を行い、更に不備な点は改善していきました。
- ☆ 看護基準、看護手順の見直しを行い、より安全な処置、ケアができるようなマニュアルに改訂しました。
- ☆ 薬剤師、検査技師の入職により、業務分担と連携ができるようになり、看護業務に専念できる体制ができました。
- ☆ 教育・研修委員会により、教育計画が立てられ、定期的な研修会が行われています。又平成17年度より、院内研究発表が再開され、看護部も各部署が研究発表を行います。今後は、職員アンケートの意見を反映し、専門的な知識の向上ができる委員会へ発展させたいと思います。

- ☆ 平成12年度から人工関節置換術の患者様に対し、クリニカルパスを使用していますが、患者様の満足度、効率的な医療・看護の提供、充実したインフォームドコンセントがより充実したものになるようにクリニカルパス委員会で検討しています。
- ☆ 看護師の配置は、一般病床、療養病床共に、施設基準比を上回った配置を行っており、看護の質の向上、安全の確保、患者満足度方面に配慮した対応をとっています。
- ☆ 外来においては、待ち時間調査や患者満足度調査を行い、待ち時間の短縮苦情に対する対策を検討し、又、気軽にスタッフに質問等ができるように接遇教育を行い、自己チェック、上司による評価を定期的に行っています。
- ☆ 看護計画や看護記録の見直しも行っていますが、今後は、患者様や御家族の意見・要望を聞き、患者様参画の計画・記録ができるように検討をしていきたいと思っています。
- ☆ 他 卒後教育、チャレンジシートによる職員の能力開発、院外研修への積極的な参加、インシデント・アクシデント分析による事故防止対策、他職種とのカンファレンスによる看護ケアの改善等おこなっています。

今後も認定病院に相応しい病院であり続ける為に、『笑顔で、真心のある看護、事故のない安全な、質の高い看護サービス』が提供できるように努力し、実践してまいります。



婦長さん・主任さん

外来主任 今村仙子

日本病院機能評価(Ver4.0)認定おめでとうございます。
一昨年から職員一同で取り組んだ資料作り、とても大変でしたが、病院の質の向上、患者様へのより良い医療行為・サービスを提供する為、夜遅くまで頑張った事も今思うとなつかしくもあり、やり遂げた充実感に至ることが出来嬉しく思っています。患者様に、ますます「今日も、忙しいね!」と、声をかけられそうです。

患者様の声を聞きながら外来の特長を生かし、外来に必要な迅速な判断力・的確な処置・短時間での患者様の個々のニーズに合った対応が出来るよう頑張っていきたいと思っています。

患者様の満足度はどうでしょうか?

毎日のように反省の日々がつづきます。しかし、患者様からの「看護師さん、ありがとう!ありがとうございました!」の言葉に励まされ今日まで頑張ってきた様に思います。

これからもスタッフ一同、心のこもった看護を提供出来るよう努力していきたいと思います。どうぞ、宜しくおねがい致します。

個人情報保護に関する基本方針

当病院は、個人情報を正確かつ安全に取り扱い保護することを社会的責務と考え、以下のことを宣言いたします。

- 当病院は、個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定・運用を規定し、全ての代表者および職員が遵守することにより、個人情報の適切な管理に努めます。
- 当病院は、個人情報保護の重要性について、院内に対する教育啓発活動を実施するほか、個人情報保護の管理・監査者を設置し、適切な管理・監査体制を確立し運用を行い継続いたします。
- 当病院は、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などが発生しないように安全対策を実施いたします。
- 当病院は、個人情報の収集・利用・提供については、個人情報に関する個人の権利を尊重し、収集目的・使用範囲の限定を明示し、適切な管理に努めます。
- 当病院は、個人情報に関する法令その他の規則を遵守します。
- 当病院は、以上の活動について、内容を継続的に見直し、改善に努めます。

橘釣れないサークル

的鯛(まどうだい)
とったどー

マダイ
とったどー

ヒラメ
とったどー

はじめまして、橘釣れないサークルリーダー連城です。

このサークルは2年ほど前から活動し、名前は柏木先生から命名されました。確かに2年ほど前は、釣りに行けばぼうず(何も釣れないこと)がほとんどでした。しかし、ここ最近写真のような釣果が得られるようになり、サークル名を変えていただこうと柏木先生に交渉しようと考えているところであります。

最後に、患者様へのお願いがあります。

まだまだ、未熟な私たちに釣り情報をいただけないでしょうか?

有力な情報を頂いた際には、湿布を差し上げますかも(笑)

橘病院の理念(私たちがめざすこと)

当院は「医療の質の向上」を追求し、患者様(家族)と職員・スタッフがともに「心ゆたか」になれる病院を目指します。
患者様の1日も早い社会復帰(家庭、就労、就学など)を願い、地域住民から安心され、信頼され、共感を得られる病院づくりを目指します。

標語

17年 10月 きれいな職場を 心のゆとりで 事故ゼロへ

11月 声に出し 私とあなたで 確認を

12月 みんなで作ろう 整った職場の 作業環境

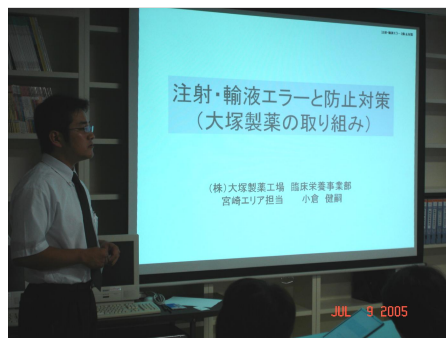
18年 1月 話をしよう あなたの不安 私の経験

(環境美化係より)



研修会

平成17年7月9日(土)「注射・輸液エラーと防止対策」
について勉強会を行いました。



(出席者 54名)
日々の安全確認を確実にやり、医療事故のない環境づくりに努めていきたいと思ひます。

(講師 (株)大塚製薬工場 小倉健嗣氏)

祭り

平成17年8月1日、地域の夏祭り(中町祇園祭)がありました



毎年、当院の職員も参加しております。中町の沿道を練り歩いて声援を受けています。



実習生紹介



今回の実習を通して、実際に現場を見ることができ、また実際に自分でやってみてとても貴重な体験ができたと思ひます。

この期間で学んだことをこれから先の就職活動等に生かすことのできるよう努力していきたいと思ひます。10日間という短い期間でしたがありがとうございました。

[鹿児島ハイテク専門学校 医療情報管理システム学科 松崎晃司]

(平成17年5月16日～5月27日迄実習)



2週間という短い期間でしたが、先輩や病院のスタッフの方々に教わりながら無事終えることができました。受付や診療情報管理士の仕事を実際に体験して、学校の授業だけでは分らなかったことをたくさん知ることができました。この経験を忘れず、将来に生かしていきたいと思ひます。

[鹿児島ハイテク専門学校 医療情報管理システム学科 柴畑菜美]

(平成17年5月16日～5月27日迄実習)



今回の実習に際して、私の知識・技術不足で患者様の全体像を把握することができず、患者様に御迷惑をおかけしました。しかし、患者様は検査・測定に協力してくださり、私とのリハビリが楽しいと言ってくださいました。

また、適切な指導をしてくださった塩崎先生をはじめ、橘病院のスタッフの方々のおかげで良い経験をさせていただくことができました。深く感謝しております。今回、先生方に指導していただいた事を活かし理学療法士への勉強に励みたいと思ひています。ありがとうございました。

[神村学園医療技術専門学校 理学療学科3年 飯島 正二郎]

(平成17年5月9日～7月2日迄実習)

癒しのミニコンサート開催



平成17年11月8日(火)開催



元XJAPAN(ロックバンド)のToshi(とし)さんが、ヒーリング(癒し)音楽のミニコンサートを当院で開催してくださいました。入院の患者さんや家族の方などたくさんの方々と心癒されるひとときを過ごすことができました。



病床雑感 『すばらしい出会いと感動と』

和知 朝子



平成14年10月24日、3回にわたっての貯血600ccを無事終えることができた。その安堵感と虚脱感とが一度に私を襲ったかと思う間もなくいつの間にかまどろんでいたらしい真暗闇の中で必死にもがいている自分がいる。「奈落の底」へ落ちていくとはこんなことを云うのか今考えてみれば「金縛りにあう」などと云うことを聞いたこともあるけど、動こうとしてもどうにもならない大声で叫ぼうとしても声にならない暗闇の中を彷徨う自分がいた。やや暫くして遠くで人の声がするハッと我に返る。額にはべっとりの汗、「夢を見ておられましたか。」なんともやさしさのある声だった。ああ救われたのだ、生きていたのだ、私は思わず看護師長さんの手を握りしめていた。私と看護師長さんとの感動的な出会いだったと思う。それから4日目の朝早く若い看護師さんが見え、ベッドのまま手術室へ直行する、ああ、いよいよかと覚悟はしていたものの恐怖感が一度に襲いかかってきた。胸の高鳴りがどうしても止まらない、柏木先生の腕を信じないでどうする自分に云い聞かせつつもその恐怖感はどうすることも出来なかった。腰椎と腕に注射後は前後不覚になる2時間30分後手術終了、病室へ連れてこられた。口だけが妙に渴く「水がほしい。」すると間もなく柏木先生が見えた。「よくがんばったね。立派に成功しましたよ。」なんとも感動的な言葉だった。嬉しくなった。今までの不安が一度に吹っ飛んだ。「ありがとうございました。」言葉にならない、良かった長く辛かった激痛から私は解放されたのだ。これで人並みの歩きができるようになれるのだ、何とも云いようのない喜びと勇気が湧いてきた。柏木先生との感動的な出会いであった。リハビリ中も幾度か励ましの言葉を掛けて頂いた。その都度励まされた。その他にも多くの人との出会いがあった。看護専門学校の実習生の生徒さん、誠に献身的で真面目な態度に頭の下がる思いがした。孫ほどの男の生徒さんに汚物一切の処理と介添唯々ありがたかった。又ある時は、女学校の同窓生20名余リドヤドヤにぎやかに遠方から見舞いに来てくれた。どれだけ癒され慰められたことか、病床6ヶ月、左、右人工股関節置換術手術が無事に終わった。長く苦しかった激痛とままならない歩行も、もう凡て遠いことのように思えるようになった。

それもこれも柏木先生はじめ院内のみなさんの優しさと励ましに支えられたからだ。医は仁なりと聞かすが、私は医＝仁＝愛(思いやり、優しさ)であるとの真理を私なりにつかむことができた。やさしい出会いとすばらしい感動、意義のある6ヶ月であった。 唯々感謝



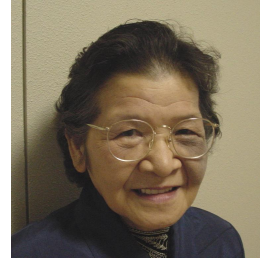
・皆さんから何か疑問に思われることやご質問があれば、当院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、放射線技師、事務員がお答えいたしますので文書や口頭、メールでかまいません。お寄せください。

(メールアドレス info@tachibana-hospital.jp)

広報委員
新留ひとみ・森山善子・連城幸枝・中村みゆき・加治木 愛・池之上浩紀
山元加代子・小八重静香・山下みさ子・増田真樹・山口光生・池田小百合・柏木輝

『両膝人工関節手術をして』

西 房子



右、左膝人工関節置換術をして3年2ヶ月経ちます。退院後は近くの医院で電気治療に1年通院し調子が良く、その後は小八重先生に基づいたリハビリをしてきました。これも諸先生方、スタッフの皆々様のお陰だと感謝しています。また、定期検診も今年の9月で7回目です。結果が良く野菜、花作りに楽しんでいます。

それから来院するたび思うのが患者さんの多いことです。そして笑顔で対応されている看護師さんの姿が本当に気持ちのいいものです。3年前の4ヶ月間忘れることなく痛みあるも楽しさありで本当に思い出深い入院生活でした。ありがとうございました。柏木先生、スタッフの皆々様の指導を無駄にしないようにリハビリにがんばります。

現在、不快症状の改善のために歩行浴、簡単な筋力トレーニングをしています。

今後もよろしくお願い致します。

『 アメリカ生活① 』

先日、院内の勉強会で留学時のことを発表し、久しぶりに写真をまとめてみました。その写真を子どもたちと見ていろんなことを思い出しました。

その一つです。

家族でアメリカに向かう途中の飛行機内で「お客様の中にドクターがいらっしゃいましたら急病人ですのでお願いします。」とアナウンスがありました。テレビのドラマなんかでよくある場面ですが、初めての経験でした。以前、先輩に「こういう場合手をあげるべきでない。ひとつ間違えると訴訟になりとんでもないことになる。正義感や責任感はあるが、医師の生命にかかわる」と教育されたことがあります。でも、やはり手を上げてしまいました。

産婦人科や、循環器内科の疾患かと思いきや、大きなアメリカ人男性の急性腰痛で、整形外科の出番でした。ヘルニアのような神経症状はなく体位、姿勢の確保と機内にあった薬を指示し落ち着きました。

さらに、機長は、緊急着陸の必要があるかどうか回答してほしいといってきました。症状の経過から緊急着陸の必要は無いと答えましたが、レントゲンなどの画像も無く、検査データももちろんありません。腎臓結石や内臓由来の腰痛の可能性も否定できません。もし、症状の悪化や生命にかかわるようなことが生じた場合、緊急着陸しなかった責任が機長から私に転嫁される可能性もあります。日本国内から離れ、日本のドクターのライセンスは無効で医師の賠償保険も通用するかどうかわかりません。訴えられた場合、いったいどうなるのでしょうか。なるほど、先輩の言った意味がわかってきました。

後日、航空会社からお礼状が届きました。でもこれは一つ間違えたら裁判所

からの通知であったかもしれません。5年前のことで子どもたちもまだ小さくこのことは覚えていませんでしたが、「手をあげて名乗り出てよかったじゃん、治ったんだし。」と言います。でも先輩の言うように手を上げるべきでなかったと思います。しかし、また同じような場面に出くわしたらどうでしょう。じー

柏木輝行

